

災害を乗り越えてきた人々

—「環境」の歴史に復興への道をさぐる—

日時・会場

平成23年7月20日・7月27日・8月3日(すべて水曜日)
午後6時～8時 東北学院大学土樋キャンパス 4号館401教室

私たちの日常を一瞬の災害が奪い去っていきました。仙台をふくむ東北地方は、今まさに復興への道を暗中模索しています。そうしたなか、歴史研究にかかわる人文科学は、社会にどういった貢献ができるのでしょうか。

歴史の研究者は、さまざまな災害に直面した過去の人々が、どのように自らの生活を再建してきたかについて、多くを知っています。困難に直面した人々が、いかに知恵をはたらかせ、どのように手をたずさえたか。環境に対する知識をどのように活かして生き延びたか。そして、災害をふくむ環境とのかかわりのなかで、どのように人間の存在を理解してきたか。環境にかかわる歴史の研究は、過去の人々の力強さを見つめてきました。

復興には、インフラや建物などのハード面だけでなく、生きることに大きな意味を見出すことでもあるはずです。そのとき、歴史のなかに生き続ける「災害を乗り越えてきた人々」の力に学ぶことも、意味のあることだと考えます。

今回の講座は、歴史研究の成果をご紹介しながら、復興への道とともに考える機会としたいと思います。

講演日程

受講
無料

7月20日(水)

第一部 「考古学から見た日本列島の大規模災害と人類
—貞観大地震と修理府を中心に—」

本学文学部歴史学科教授 佐川 正敏

第二部 「災害経験を伝えるメディア

—記録・文学・民間伝承の狭間にあるもの—」

本学文学部歴史学科准教授 加藤 幸治

7月27日(水) 特別講演会

「水への想い、原郷への想い

—東アジアの水災をめぐる環境文化史—」

上智大学文学部史学科准教授 北條 勝貴氏



8月3日(水)

第一部 「防災林の歴史と現在 —仙台藩領の海岸林を中心に—」

本学文学部歴史学科教授 菊池 慶子

第二部 「災害の解釈学 —『漢書』五行志を読む—」

本学文学部歴史学科教授 下倉 渉

東北学院大学土樋キャンパス案内図

